

全力で届けた夢舞台 ドリーム☆キッズが熱演

劇団ドリーム☆キッズ第24回ミュージカル公演「も〜いいかい？ も〜いいよ！ーいちばん星の約束ー」は9月13、14の両日、水の里ホール・Abebisouで開催され、2日間で延べ848人が来場しました。

公演は、小中高生ら団員31人に、準キャスト・卒団生を加えた総勢39人が出演。ダブル主演の熊谷綾乃さん(17)＝米山町追土地＝と佐藤美空さん(14)＝米山町中塚＝は「役の気持ちや関係性を意識しながら、みんなで稽古を頑張りました。見た人に勇気や元気を届けられるようにと全力で演じたので、伝わっていただうれしです」と感想を話していました。



華やかな衣装に身を包んだキャストらが、笑顔を輝かせ、全身で物語を表現。終演後、客席から惜しみない拍手が送られました。

自然の恵みに触れる 登米市環境出前講座開催

「登米市環境出前講座」(佐沼地区コミュニティ推進協議会、市共催)が9月6日、迫公民館で開かれ、27人が参加しました。

講座は、宮城県環境教育リーダーの森佳代子さん(合同会社ものわ)を講師に迎えて開催。参加者は、ニホンミツバチの生態や人間との関わり、生物多様性などを学んだ後、ミツロウを使ったクリーム作りを体験して自然に対する意識を高めました。家族で参加した八島慶さん(9)＝迫町鉄砲丁＝は「ミツロウクリーム作りがすごく楽しかったです。リップクリームにもなるので毎日使いたいと思います」と笑顔で話しました。



材料を混ぜながらクリーム作りを体験する参加者。自然の恵みを生かした、肌と環境に優しいミツロウクリームができました。

時空の旅へいざなう 登米秋まつりと薪能開催

「登米秋まつり」(登米秋まつり協賛会主催)が9月19、20の両日、登米町内で開かれました。

秋まつりは、県指定無形民俗文化財に指定され、1675(延宝3)年から始まったとされる伝統行事。伝統の山車が町内を練り歩いたほか、神輿渡御や神楽演舞などが催されました。19日の夜に開催された登米薪能(とよま振興公社主催)では、森舞台の完成30周年を記念し、当時設計を担当したとめふるさと大使の隈研吾さんが駆け付けて、火入れの儀へ参加。かがり火が揺らめく中、25年ぶりとなる「土蜘蛛」が演能され、観客は幽玄の世界へと引き込まれていました。



無数の糸が舞い散る迫力の演出と緊迫感あふれる登米謡曲会による「土蜘蛛」の演技に、観客は息をのんで見入っていました。

ごみ処理の裏側公開 クリーンセンター見学会

「クリーンセンター施設見学会」が9月8日に開かれ、21人が参加しました。

見学会は、本市のごみ処理の現状や正しい分別方法を広く周知することを目的に開催。参加者は、施設の設備やごみ処理の状況を見学した後、ごみの分別方法の説明を聞き、ごみの減量や再資源化について理解を深めました。参加した飯塚盛さん＝中田町野元＝は「ごみ処理の現場を直に見ることで、減量や正しい分別の必要性をより意識することができました。モバイルバッテリーや資源ごみの出し方など、今日から気を付けていきたいです」と感想を話していました。



普段見られないクリーンセンターの施設内や焼却までの一連の流れを見学し、参加者は意識を新たにしました。

わくわく広がる一日 登米市こどもまつり開催

「第15回登米市こどもまつり」が9月27日、水の里ホール・Abebisouで開催され、約1,100人が来場しました。

こどもまつりは、体験と交流を通して、子どもたちの健やかな成長を願い実施。童謡コンサートやマジックショー、ボランティア団体による読み聞かせのほか、折り紙作りや忍者ランド、おさがり広場など、家族みんなで楽しめるさまざまなイベントブースが設けられ、大勢の親子連れでにぎわいました。小林玄汰さん(6)＝迫町山の上＝は「コンサートを見てから、キーホルダーを作りました。コンサートでは、ネコの歌をみんなで一緒に歌って楽しかったです」と話していました。



今年初めて設けられた忍者ランドで「技みがきジャンプ」を体験する子どもたち。忍者になった気分で楽しく過ごしました。

地域の防災力を強化 非常時に備えて防災訓練

「登米市総合防災訓練」が9月12日、錦織公民館と東和総合運動公園を会場に開催され、自主防災組織や関係機関などから250人が参加しました。

防災訓練は、「地震と山火事」の複合災害を想定し、地域の防災力向上と、市民の防災への関心を高め、被害を最小化することを目的に開催。安否確認情報の伝達や避難所開設、応急救護、山火事対応などの訓練が行われました。小野寺公一さん＝東和町米川10区＝は「昨年度、自主防災組織で危険個所のマップを作りました。日頃から災害に備え、いざという時は地域内で助け合うようにしたいです」と決意を新たにしていました。



真剣な表情で応急救護訓練に取り組む参加者。家庭にあるものを活用して、骨折したときなどの応急処置を体験しました。